

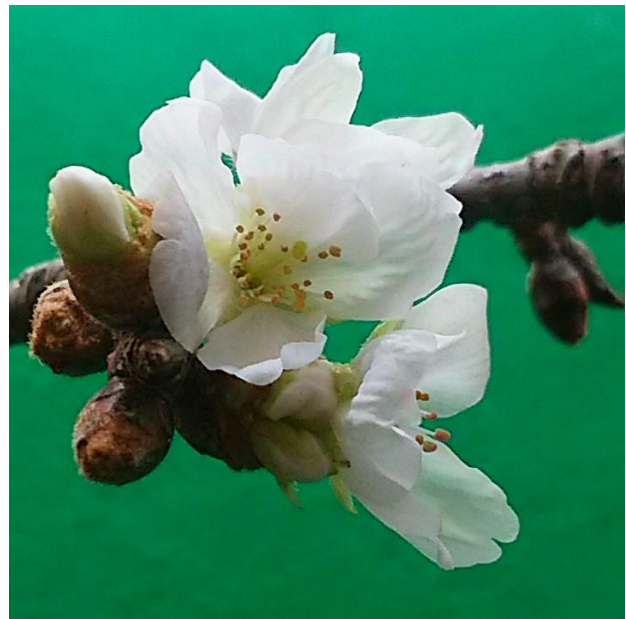
今朝のNHK・BS7時45分からの「グレートトラバース3」という番組を偶然見た。この番組をご存じの方もあるかと思いますが、プロアドベンチャーレーサーの田中陽希が、鹿児島県宮之浦岳から北海道の利尻岳まで、日本三百名山、全山人力踏破に挑んだ「グレートトラバース3」というシリーズ。その旅の模様を毎日15分で紹介されているもの。今朝の舞台は、滋賀と三重の県境にまたがる鈴鹿山脈の2座、藤原岳と御在所山であった。

藤原岳は故郷の山・麓で育ち、実家のあった場所。御在所は学生時代にワングルのトレーニングやハイキングで四季を通じて何度も訪れた場所であり興味深々でみた。御在所の方は、藤内壁やおばれ石など懐かしい風景として見ただけであったが、藤原岳の登山道や山頂部の景色には唖然とした。中腹の落葉樹の中の登山道、過っては一面にカタクリの群落のあった思しき場所は、箕面の森と同様、一草も見られないだっ広い林床と化していた。さらに進むと一面に緑の草原に出る。「やっぱり草はいいね」という陽希の言葉ではあったが、画像の大写しでは何とマツカゼソウの単一草原。その先の道の緑はコシダのみ。また、山頂附近の鞍部は過っては笹に覆われ歩行の妨げであったのに、今は茶色の地面が露出、白い風化石灰岩があちこち頭をのぞかせているという光景に化していた。「花の百名山」などとはとてもお薦めできない。鹿の食害であることは言うまでもない。願わくば、六甲山がこの様な姿にならないように。

＊本題のサクラに話を戻します。次の段組みに、「休眠打破」の状況調査のため2月26日に採取、促進試験を続けて来ていたソメイヨシノの枝の今朝の記録写真を掲載します。20個あった花芽のうちの6個の花を平開しました。開花宣言ではなく、3分咲きです。3月7日の夕にはこの枝で1花がみられましたので、このときを開花日としても良いかも知れません。

花を目立たせる為にグリーンに変えました。

(スマホで撮影、無修正です。)



花卉の直系は12～15mm、20mm程度までは伸張するでしょう。

でも、この花「ソメイヨシノ」のものと言えるのでしょうか。見えませんね。野外で自然に咲く花には必ず花柄があります。この写真の花は花芽の先に窮屈そうに咲いています。普通は、一つの花芽から花柄のついた3～5この蕾が一斉に出て一斉開花します。下の写真を良く見ると下方右向きに咲いている花の基部には2つのつぼみが窮屈そうに覗いています。一斉開花ではありません。この蕾が開花まで行くかどうかは今後の観察。

では、なぜ自然に樹に咲く花とは様子が違うのでしょうか。試験を始めた時の芽は硬い正に“冬芽”でした。この小さい花芽の中に3～5個も花を咲かせるだけの養分があったのでしょうか。あったらこんな咲き方はしないはず。きっと冬芽が開き、膨らんでくるころには、樹本体から栄養分が補給されてくるが、切り枝ではそれが無い。

では、どの様なステージで花芽に栄養が供給されるのでしょうか。これを見るには、実際の桜の木から、花芽が膨れ始めたところから1～3日おきに1枝を頂戴してきて、これまでと同様な促進試験をやってみれば分かることでしょう。

次に、この写真の画面には開花した芽以外に膨れ状態が様々な“冬芽”がみられます。これはこの1本の枝の中にも「休眠打破」の時期の異なる芽が存在することを示しています。また、枝先にある尖った芽（葉芽）は全く動いていないことがわかります。花が咲いた後に葉の展開するソメイヨシノの特徴を証明しています。

・少し遅れてオオシマザクラも試験に加えました。

（ヤマザクラについても予備試験をしましたが、採取地で葉芽と花芽が同時展開したり、葉芽の展開が先行するなど一定しませんでした。）

試験の結果の解析はこれだけではありません。先にお知らせした「開花予報」がこの実験からより正確に出来るのです。これまでの既知の方法は、ある時点からの積算温度で開花を予想するものです。（400℃法、600℃法参照。）大抵は2月1日からの積算温度を使いますが、3月始めには2月の実績値が分かり、3月の気温もほぼ推測できるので、積算温度から開花日を予想するものです。この考えの前提には2月1日には「休眠打破」が終わっているという仮定が入っています。

今回の促進試験から、開花予想日を割り出す方法は「休眠打破」の遅い、早い要素は入ってきません。では、どの様に考えるかです。

今回の実験例をもとに説明して行きます。テストの開始日は2月26日、試験した部屋の温度は24～17、8℃、平均は21℃です。この枝に1つ花が開いたのは3月7日です。試験開始から開花までに要した積算温度は21℃×10日で210となります。つまり、2月26日を基準に積算温度が「210」になれば開花することになります。あとは2月26日以降の気温がどうなるかですが、神戸海洋気象台の今年の実績値は、2月下旬9.1℃、3月上旬9.8℃、中旬はよっぽど冷え込まない限り、10～11℃程度にはなるでしょう。この期間の平均気温を10℃とすれば、積算温度210になるには、21日間が必

要です。2月26日から21日後は、**3月18日**。これが当地での開花予想日となります。同様な手法で、皆さまのお住まい近くの開花予測をさせては如何でしょう。

少々乱暴な予測ですが、この手法は使えるでしょう。制度を上げるのであれば、促成温度は恒温室など使って一定にすること、試験体（切り枝）を増やすことなど必要です。

なお、皆さまと同じく、3月1日試験を始めた枝では、3個の芽から薄いピンクの花先が覗いています。明日か明後日には開花するでしょう。

当初は、今年は記録的な暖冬であったため、開花時までにはどのくらい「休眠打破」されない芽が残るか、それとも皆「休眠打破」されているかを調べる目的で始めた試験でしたが、日々の変化からじっくり見るといろいろなことが分かるように思います。まだ、葉芽の展開がいつ始まるかなど観察を続けます。

皆さまが観察されている、切り枝の変化如何でしょうか？この報告が参考になればと急ぎまとめました。ソメイヨシノ以外の枝の観察をされている方もいらっしゃいます。ソメイヨシノとの違いなどお知らせ下さい。

***紙面が余ったので、余談。**

このシリーズで使っている写真は殆どスマホで撮ったもの。今頃気が付いたのかと笑われそうですが、本当に便利ですね。写真機能では20倍ぐらいのズームはききますし、私の老人用？スマホには「便利ツール」の中に、拡大鏡の機能が入っています。これが優れもので、ルーペと同じ8～10倍の拡大が可能で、拡大像はそのまま写真記録が可能です。撮った写真はアルバムに撮影期日が記載され格納されます。さらに、撮った写真は即メール送が可能で、スマホのアドレス帳に自分のPCのメールアドレスを打ち込んでおけば、電波の届く範囲であれば、送信可能。1回に4枚程度まで纏めて送ることも出来ます。勿論画像はPCメールから取り出し、如何様にも加工可能。画像もカメラのものにそん色ありません。釈迦に説法かな。なお本報の写真は、本体カメラと拡大鏡を使ったものです。

以上